

東京都議会議員 三宅しげき殿

## 中学校英語スピーキングテスト結果の都立高校入試への活用の延期・見直しに関する請願

東京都教育委員会（以下都教委）はベネッセ・コーポレーションと協定を結び、11月27日（日）に全公立中学3年生を対象に英語スピーキングテスト（ESAT-J）を実施し、その結果を令和5年度都立高校入試において活用しようとしています。このテストでは、イヤホンから流れる問題に、一人ひとりが答え、音声は録音され、解答はフィリピンで採点され、1月中旬に結果が返却されて、都立高校入試総合得点に20点満点で加算がされます。

### 合否判断への不合理な影響

ESAT-J 採点は100点満点で行われ、それが4点差ずつの6段階20点満点での換算点となって加点されます。結果、英語だけが調査書点がほぼ倍となりますが、そこに合理的な理由がありません。また開示請求をしても ESAT-J 得点の具体的な理由は明らかにされないしくみになっています。加えて、例えば100点と65点の35点の差でも、65点と64点の1点の差でも、換算点の差は4点ということになります。1点の差で合否を判定するしくみの入試にはふさわしくありません。

### 「入学選抜試験として成り立たない」不受験者の扱い

5月26日に都教委は ESAT-J の不受験者の扱いについて発表しました。これによると当該不受験者の2月の英語学力検査（筆記試験）の得点から「仮の ESAT-J 結果」すなわち得点を算出するとしています。具体的には同じ学力検査得点の前後概ね10人の生徒の ESAT-J の平均値を使うといいます。しかしこの方法について、南風原朝和東京大学名誉教授（心理統計学）は「平均値が安定しない」「逆転も容易に起きる」と予想され「入学者選抜として成り立ちません」と評価しています。

そもそも学力検査得点から ESAT-J 得点を算出できる根拠はあるのかという疑問に、都教委は「具体的な相関関係のデータはただ今持っていません。」（5/27 都議会文教委員会）と答えているのです。

### スケジュールの不備、地域格差が得点の格差へ

テスト結果の1月中旬返却では、受験校を12月に決めている受験スケジュールに全く合っていません。調査書の作成や完成も遅れ、ミスの誘発なども含め学校現場がますます多忙化、混乱することは必至です。

現在都内では、ESAT-J と酷似しているベネッセの英語テスト GTEC Core を全校で実施している区市町村が9つあります（不実施42[6/6 調査時点]）。今回のような形式のテストは事前に経験を積んだ方が確実に有利になる可能性が大きく、居住地域により出発点から不公平な状況となっています。

## 請願事項

1. 都において、中学校英語スピーキングテスト（ESAT-J）結果の都立高校入試への活用の延期・見直しをしていただきたい。

お名前	ご住所（「同上」「#」は使わないでください）	（印）
	都 県	
	府 道	
	都 県	
	府 道	
	都 県	
	府 道	
	都 県	
	府 道	

\*ご記入いただいた個人情報は、この署名目的以外には使用しません／「ご本人による自署」または「記名・押印」をお願いします

呼びかけ団体

都立高校入試へのスピーキング  
テスト導入の中止を求める会

取り扱い団体

子どもと教育を守る東京連絡会

【署名送付先：〒102-0084 千代田区二番町12-1

エデュカス東京5階 東京教育連絡会 8/26 までに】

東京教育連絡会

\*ご質問・ご意見はこちらへ：[stoptokyospeakingtests@gmail.com](mailto:stoptokyospeakingtests@gmail.com)